資料１－２

番号	節	柱	主要施策	主要施策評価票	② 主要施策ランク付け・課題の整理と評価(案) 指標数値目標		③柱別評価(案)	④ 柱別総合評価(案)
Ⅰ 安心して元気に暮らせる社会づくり								
		1 地域包括ケアシステムの深化・推進					**A**	地域包括支援センターの機能強化については、目標達成に向けた取組は進捗しているものの、職員養成研修に対する充実した周知方法を工夫していく必要がある。 医療と介護の連携強化に向けた取組は着実に実施できたが、今後のニーズ増加に備え、在宅医療に対応できる訪問看護師に必要な研修を継続的に実施し、人員の増員を図っていく。 今後の著しい高齢者増加傾向を踏まえると、介護施設から医療現場への搬送の増加が見込まれるため、今後も更なる施策の充実を図っていく必要がある。 ヤングケアラーへの取組については、本人や家族に自覚がないことが課題であるため、相談体制の広報用カードの学校への配置等を通じて、ケアラーに対する広報の充実を図っていく。
					－	指標　住み慣れた場所で最期まで暮らせた人の割合		
(1)			<1> 地域包括支援センターの機能強化	1-3 ページ	B	地域包括支援センター等が開催する地域ケア会議への専門職員等派遣事業の派遣人数、地域包括支援センター職員養成研修（現任者研修）の修了者数については、目標に届いていないが、達成に向けて一定程度取組は進捗している。 今後も引き続き事業内容についての理解が十分に得られるよう、周知方法を工夫し、広報の充実を図っていく。		
(2)			<2> 医療と介護の連携の強化	4-7 ページ	A	在宅歯科医療地域連携室の相談対応件数については、目標を概ね達成しており、順調に進捗している。訪問看護についても各種研修を継続的に実施し、人材育成・資質向上に寄与した。今後も在宅医療に対応できる訪問看護師に必要な研修を継続的に実施し、在宅医療に対応できる訪問看護師の増員を図っていく。		
(3)			<3> 地域での支え合いの推進	8-9 ページ	A	生活支援コーディネーター研修の受講者数、包括的な支援体制の整備を市町村地域福祉計画に位置付ける市町村数については目標を達成した。また、民生委員・児童委員１人あたりの住民に対する訪問回数は目標まで届いていないが、達成に向けた取組は進捗している。今後は訪問だけでなく電話及び手紙を活用することで民生委員活動の推進を図っていく。		
(4)			<4> ＮＰＯ・ボランティア等との協働	10 ページ	B	ボランティア活動の推進は目標に届いていないが、達成に向けて一定程度取組は進捗している。また、地域活力やコミュニティ活力の低下などに対応するため、担い手養成講座の、コーディネーターの派遣を着実に行うことができた。今後も引き続き開催地域の広報に力を入れるなど、より一層の参加者数確保に努めていく。		
(5)			<5> ケアラー（介護者）への支援	11-19 ページ	A	かながわサポートケア認証制度の参加企業数及びかながわケアラー支援ポータルサイトの年間閲覧数は目標を概ね達成しており、取組は進捗している。家族介護支援事業の実施市町村数は、目標まで届いていないが、達成に向けて取組は進捗している。ヤングケアラーについては、本人や家族に自覚がないことが課題であるため、相談体制の広報用カードの学校への配置等を通じて、ケアラーに対する広報の充実を図っていく。		
(6)			<6> 多様な住まいの確保	20-22 ページ	A	サービス付き高齢者向け住宅の登録数は、目標を概ね達成しており、順調に進捗している。住宅改修・福祉用具利用の相談体制の充実については、引き続き地域支援事業交付等を通して、地域の実情に合わせた支援をしていく。		
		2 高齢者の尊厳を支える取組の推進					**B**	指標「民生委員、住民、社会福祉協議会等からなる高齢者虐待の『早期発見・見守りネットワーク』の構築への取組を行っている市町村数」は27となった。 成年後見制度に係る研修への参加者数は概ね目標に達したが、町村域で市民後見人等の養成が進まず課題である。 高齢者の尊厳を守る取組は着実に行っていく必要があるとともに、関係者・関係機関の理解促進や資質向上に引き続き取り組んでいく。
					b	指標　民生委員、住民、社会福祉協議会等からなる高齢者虐待の「早期発見・見守りネットワーク」の構築への取組を行っている市町村数		
(7)			<1> 高齢者虐待防止対策の推進	23-24 ページ	A	かながわ高齢者あんしん介護推進会議等の開催数は目標を概ね達成しており、順調に進捗している。介護保健施設における看護職員研修の受講者数については、目標まで届いていないが、周知方法の工夫等により達成に向けて取組は進捗している。		
(8)			<2> 権利擁護のしくみの充実	25-27 ページ	A	県社協による権利擁護の取組は順調に行えている。法人後見担当者養成研修については、概ね順調に推進することができたが、町村域で市民後見人等の養成が進まず課題である。また、支援が必要な矯正施設退所予定者等を円滑に福祉サービスにつなげ、地域生活への移行や自立促進を図ることができた。		

番号	節	柱	主要施策	主要施策評価票	② 主要施策ランク付け・課題の整理と評価(案) 指標数値目標		③柱別評価(案)	④ 柱別総合評価(案)
		3 安全・安心な地域づくり					A	指標「『鉄道や道路、建物がバリアフリー化され、誰もが安心して移動・利用できる、人にやさしいまちになっている』に関する満足度」は29.7%となった。 地域における見守り体制の充実のため、引き続き友愛チームの設置に向けた支援の取組を推進していく必要がある。 鉄道駅のホームドア設置数の目標を達成しており、概ね順調に進捗している。 事故や犯罪被害などの防止の取組については、進捗が進んでおらず、新たな周知等図っていく必要がある。 災害時の要配慮者への支援については、着実に取組を進めているが、引き続き災害発生時に備えた研修、訓練を通じて、災害時要配慮者への福祉支援体制の充実を図っていく。
					a	指標　アンケート調査「鉄道や道路、建物がバリアフリー化され、誰もが安心して移動・利用できる、人にやさしいまちになっている」に関する満足度と答える人の割合		
(9)		<1>	地域における見守り体制の充実	28-29ページ	B	寝たきり・独り暮らしの高齢者を訪問する友愛チームの設置数は、目標まで届いていないが、達成に向けて取組は一定程度進捗している。生活援助員派遣等については、実施市町村数が少なかったことから、引き続き地域の実情に応じた支援をしていく必要がある。		
(10)		<2>	バリアフリーの街づくりの推進	30-32ページ	A	鉄道駅のホームドア設置数は目標は達成しており、順調に進捗している。引き続き誰もが安心して移動・利用できる、人にやさしいまちとなるように、鉄道や都市公園施設のバリアフリーに資する県有施設の整備や普及啓発を推進していく。		
(11)		<3>	事故や犯罪被害などの防止	33-38ページ	C	高齢者が被害者となりやすい特別詐欺を始めとする各種防犯キャンペーンについては、目標の参加人数に届いていないが、研修等により消費生活相談については推進することができた。今後は高齢者にいかに参加してもらうかが課題であり、新たな周知を検討していく必要がある。		
(12)		<4>	災害時の要配慮者への支援の推進	39-40ページ	A	災害発生時に在宅生活していた高齢者が一時的に在宅での介護が困難になった場合等に備えた災害時における市町村と高齢者福祉施設等の協定締結数は、目標を概ね達成しており、順調に進捗している。引き続き、災害発生時に備えた研修、訓練を通じて、災害時要配慮者への福祉支援体制の充実を図っていく。		
	II いきいきと暮らすしくみづくり							
		1 未病改善の取組の推進					A	指標「平均自立期間」は、男性：80.1年、女性：84.3年となった。 地域の多様な主体による「介護予防事業」の推進についての取組は、地域支援事業担い手養成研修等によって、着実に進捗している。 介護予防に係る市町村支援は、個別の伴走支援事業によって効果的に実施している。 健康寿命の延伸に向けた未病改善等の取組については、オーラルフレイル健口推進員の養成数は目標を達成しており、順調に進捗している。今後はこれまで活動してきたオーラルフレイル健口推進員が活動できる普及の場を増やすとともに、オーラルフレイル対策を普及できるボランティアの養成に取り組んでいく。
					a	指標　平均自立期間		
(13)		<1>	地域の多様な主体による「介護予防事業」の推進	41-42ページ	A	地域支援事業担い手養成研修参加者数、ゆめクラブ大学参加者数は、目標を概ね達成しており、順調に進捗している。介護予防関連事業に従事する者に向けた研修の修了者数は目標まで届いていないが、達成に向けて取組は進捗している。市町村の介護予防事業の更なる取組からの推進のため、引き続き県が広域的な観点から実施する市町村支援の事業を実施していく。		
(14)		<2>	健康寿命の延伸に向けた未病改善等の取組	43-49ページ	B	かかりつけ医うつ病対応力向上研修の修了者数は目標まで届いていないが、達成に向けて取組は一定程度進捗している。オーラルフレイル健口推進員の養成数は目標を達成しており、順調に進捗している。今後はこれまで活動してきたオーラルフレイル健口推進員が活動できる普及の場を増やすとともに、オーラルフレイル対策を普及できるボランティアの養成に取り組んでいく。		
		2 社会参画の推進					A	指標「長い人生を充実させるため、コミュニティなど地域社会との関わりを大切にしている人の割合」は、65.2%となった。 シニア・ジョブスタイル・かながわでキャリアカウンセリングを利用した者の就職等進路決定率及び友愛チームの設置数は、目標を概ね達成しており、順調に進捗している。
					a	指標　長い人生を充実させるため、コミュニティなど地域社会との関わりを大切にしている人の割合		
(15)		<1>	地域共生社会の実現に向けた活動への支援	50-51ページ	B	友愛チームの設置数は、目標までは届いていないが、達成に向けて取組は一定程度進捗している。友愛チームは、地域高齢者の孤独・孤立化を防ぐために重要な役割を担っていることから、引き続き活動を支援していく必要がある。		
(16)		<2>	就業に対する支援	52ページ	A	シニアジョブスタイル・かながわでキャリアカウンセリングを利用した者の就職等進路決定率は目標を概ね達成しており、順調に進捗している。また、シルバー人材センター事業の支援についても補助金の交付を着実に実施した。		

番号	節	柱	主要施策	主要施策評価票	②　主要施策ランク付け・課題の整理と評価(案) 指標数値目標		③柱別評価(案)	④　柱別総合評価(案)
	3　生涯にわたる学習・スポーツ・文化活動の推進						A	指標「共生共創事業の参加者の満足度」は92.7%となった。 「かながわシニアスポーツフェスタ2025」は、一部中止があったものの、目標を大きく上回る参加者数となり、高齢者の健康・生きがいづくりを支援することで、かながわの長寿社会づくりに寄与した。
					a	指標　共生共創事業の参加者（出演者、観覧者等）の満足度		
(17)		<1>	生涯にわたる学習・スポーツ・文化活動の推進	53-55ページ	A	共生共創事業の参加者の満足度は目標を概ね達成しており、順調に進捗している。また「かながわシニアスポーツフェスタ2025」は、一部中止があったものの、目標を大きく上回る参加者数となり、高齢者の健康・生きがいづくりを支援し、かながわの長寿社会づくりに寄与した。		
Ⅲ	認知症とともに生きる社会づくり							
	1　認知症施策の総合的な推進						B	指標「『認知症の人が「周りのすべての人が、認知症を正しく理解してくれている。』と答えた割合」は、47.7%となった。 認知症施策は、一部未達成の目標はあったものの、普及啓発、相談支援、医療的支援、支援ネットワーク構築、人材育成、認知症未病改善など、様々な取組を総合的に推進しており、概ね順調に取り組むことができている。 引き続き、認知症の人の視点に立って、認知症の人本人が望む暮らしを実現する取組を充実させていく。
					b	指標　認知症の人が「周りのすべての人が、認知症を正しく理解してくれている。」と答えた割合		
(18)		<1>	認知症の人に関する理解の増進等	56-58ページ	B	かながわのオレンジ大使による講演等の回数は目標を大幅に上回った。引き続き認知症の人本人の意思によって、日常生活及び社会生活を営むことができる共生社会を作り上げていく必要がある。県実施の講座による認知症サポーター新規養成者数は目標まで届いていないため、講座の開催数等の増加等を検討していく。		
(19)		<2>	認知症の人の生活におけるバリアフリー化の推進	59-60ページ	A	SOSネットワーク事前新規登録者数は、目標を大きく上回り達成した。また、市町村におけるチームオレンジ設置数（累計）においても、目標を大きく上回り達成した。チームオレンジの構築やオレンジパートナーの活用が課題であり、市町村の状況に応じた支援が必要とされている。		
(20)		<3>	認知症の人の社会参加の機会の確保等	61-62ページ	A	若年性認知症研修の受講者数については目標を大幅に達成しており、順調に進捗している。支援コーディネーターへの新規相談件数については、目標を概ね達成している。今後は早期相談につなげるため、関係団体に普及啓発していく必要がある。		
(21)		<4>	認知症の人の意思決定の支援及び権利利益の保護	63ページ	A	認知症の人本人が「自分の思いが尊重されていると思う」の問いに対して「とてもそう思う」「わりとそう思う」と答える人の割合は目標値を上回った。高齢者虐待防止関係職員研修の受講者数は目標を概ね達成しており、順調に進捗している。		
(22)		<5>	保健医療サービス及び福祉サービスの提供体制の整備等	64-68ページ	A	認知症コールセンター相談件数は目標を大幅に達成した。認知症サポート医養成者数（累計）、認知症介護実践研修の受講者数についても目標を概ね達成しており、順調に進捗している。認知症介護実践研修については、研修の理解が進まない受講生に対するフォロー方法が課題である。		
(23)		<6>	相談体制の整備等	69ページ	A	認知症コールセンター相談件数は目標を大幅に達成した。認知症ポータルサイトの運営を通じて、今後も相談窓口のほか、認知症に関する基礎知識や支援策などの情報を発信していく。		
(24)		<7>	認知症未病改善の推進及び調査研究等	70-72ページ	B	コグニサイズ新規指導者数は、地域ミーティングをオンライン開催から対面に切り替えて開催したこともあり、目標を下回った。ただ、別途実施しているコグニサイズ指導者派遣で約2500人が参加しており、一定程度普及活動が推進できている。		

番号	節	柱	主要施策	主要施策評価票	② 主要施策ランク付け・課題の整理と評価(案) 指標数値目標		③柱別評価(案)	④ 柱別総合評価(案)
Ⅳ 介護保険サービス等の適切な提供とその基盤づくり								
	1 介護保険サービス等の適切な提供						A	指標「介護サービス相談員派遣事業を実施する市町村数」は24となった。 介護保険サービスの適切な提供と円滑な運営を計画に沿って運営することができた。介護サービス相談員派遣事業を実施する市町村数は、目標値を概ね達成しているものの、さらに事業に新たに取り組む市町村が見込めるよう、養成研修の案内を引き続き実施する必要がある。
					a	指標　介護サービス相談員派遣事業を実施する市町村数		
(25)		<1>	介護保険サービスの適切な提供と円滑な運営	73ページ	A	介護保険サービスの適切な提供と円滑な運営を計画に沿って運営することができた。引き続き広域的な観点から、市町村とともに介護人材の養成や施設整備などサービス基盤の充実に努める。		
(26)		<2>	安心して介護保険サービス等を利用できるしくみの充実	74-75ページ	B	介護サービス相談員派遣事業を実施する市町村数は、目標まで届いていないが、達成に向けて一定程度取組は進捗している。さらに事業に新たに取り組む市町村が見込めるよう、養成研修の案内を引き続き実施する必要がある。		
	2 保健・医療・福祉の人材の養成、確保と資質の向上						A	指標「事業所における介護労働実態調査『従業員の過不足の状況』の問いに『不足感がある』と回答した事業所の割合」は 65.8%となった。 保険・医療・福祉の人材の養成についての各分野の専門職向けの研修を着実に実施できた。一方、人材の定着や資質の向上に向けた研修の目標は下回るものが多く、周知の工夫等、更なる取組強化が必要である。
					a	指標　事業所における介護労働実態調査「従業員の過不足の状況」の問いに「不足感がある」と回答した事業所の割合		
(27)		<1>	人材の養成	76-79ページ	A	県立保健福祉大学の就職希望者の就職率、介護支援専門員多職種連携研修の受講者数、県立看護専門学校の卒業者数は目標を概ね達成しており、順調に進捗している。介護職員等は介護支援専門員等介護保険制度の要として重要な役割を担っているため、引き続き、着実な養成が必要である。		
(28)		<2>	人材の確保・定着対策の充実	80-88ページ	A	福祉介護人材キャリア支援専門員配置事業等を通して、人材の確保・定着対策を充実させることができた。ガイダンス、個別相談、マッチングまでの継続的支援をより一層進めていき、さらなる取組強化を図っていく。		
(29)		<3>	人材の資質の向上	89-91ページ	B	喀痰吸引等研修支援事業等を通じて、介護職員の資質の向上を推進することができた。また介護支援専門員多職種連携研修を通じて、介護支援専門員の資質の向上を推進することができた。メンター制度導入セミナーの参加者数は目標を達成しておらず、進捗に向け課題があるため、制度の有効性について周知等更なる取組強化をする必要がある。		
	3 介護サービス提供基盤の整備						A	指標「特別養護老人ホームのユニット化率」は 53.2%となった。 介護保険施設等の整備について、補助等の支援に取り組み、いずれの施設も定員数の計画値に対する割合が90%を超えており、概ね計画どおり順調に進捗した。今後も、地域の実情をふまえて、必要な整備を進めていく。民間社会福祉施設整備借入償還補助については交付を着実に実施した。特別養護老人ホームの居住環境の改善については、目標までは届いていないが、達成に向けて取組は進捗している。地域医療介護総合確保基金を積極的に活用し、施設のユニット化等の改修を促進することで、各施設のサービスの向上につながった。
					b	指標　特別養護老人ホームのユニット化率		
(30)		<1>	介護保険施設等の整備	92-93ページ	A	特別養護老人ホーム、介護老人保健施設等の定員数は目標を概ね達成しており、順調に進捗している。民間社会福祉施設整備借入償還補助については交付を着実に実施した。介護保険施設等の整備について、今後も、地域の実情をふまえて、必要な整備を進めていく。		
(31)		<2>	施設におけるサービスの質の向上	94ページ	B	特別養護老人ホームの居住環境の改善は目標に届いていないが、達成に向けて一定程度取組は進捗している。施設のユニット化等の改修について、地域医療介護総合確保基金を積極的に活用することにより、各施設のサービスの向上に繋がった。		
(32)		<3>	介護サービス事業所における災害や感染症に対する対応力の強化	95-96ページ	A	災害時被災状況報告システムの適切な運用については、訓練等を通じて順調に進捗している。かながわ災害福祉広域支援ネットワークの取組についても、定期的に関係者で連絡会を開催し、連携強化を推進している。		

番号	節	柱	主要施策	主要施策評価票	② 主要施策ランク付け・課題の整理と評価(案) 指標数値目標		③柱別評価(案)	④ 柱別総合評価(案)
		4 介護現場の革新					A	指標「介護報酬において、データに基づき質の高いサービスを提供する事業所が取得する『科学的介護推進体制加算』の取得率」は79.5%となった。 ICT等導入支援事業所数については、国が、ロボットとICTの一体的な補助を促進する補助メニューを新設しそれを優先的に補助事業として行ったため、より1事業所あたり単価の高い補助となり、例年より補助事業所数は減ってしまったが、介護ロボット導入支援補助金による導入台数は大幅に目標を上回った。
					a	指標　介護報酬において、データに基づき質の高いサービスを提供する事業所が取得する「科学的介護推進体制加算」の取得率		
(33)		<1>	介護現場の生産性向上	97ページ	B	介護ロボット導入支援補助金による導入台数は大幅に目標を上回った。ICT等導入支援事業所数については、国が、ロボットとICTの一体的な補助を促進する補助メニューを新設しそれを優先的に補助事業として行ったため、より１事業所あたり単価の高い補助となり、例年より補助事業所数は減ってしまったが、達成に向けて順調に進捗している。	
(34)		<2>	エビデンスに基づく介護サービス提供による介護の質の向上	98ページ	B	介護ロボット・ICT導入支援補助金による介護ロボット導入台数は目標を上回ったもののICT導入支援補助金による導入事業所数について目標を下回っている。引き続き介護の質が向上するよう、補助金等により支援する。		
	Ⅴ 市町村が行う取組の支援施策及び目標値							
		1 自立支援・重度化防止の取組の支援					A	指標「第１号被保険者のうち要介護２以上の者の割合」は10.7%となった。 地域包括ケア「見える化」システム等を活用した地域分析における、市町村職員を対象とした地域分析に係る研修会の開催数は目標を達成し、順調に進捗している。ただ、出席市町村数は24/33のため、欠席の市町村への研修会参加に向けたアプローチ、個別支援等の検討が必要である。
					a	指標　第１号被保険者のうち要介護２以上の者の割合		
(35)		<1>	データを活用した地域分析支援	99ページ	A	地域包括ケア「見える化」システム等を活用した地域分析における、市町村職員を対象とした研修会の開催数は目標を達成し、順調に進捗している。ただ、出席市町村数は24/33のため、欠席の市町村への研修会参加に向けたアプローチ、個別支援等の検討が必要である。		
(36)		<2>	自立支援・重度化防止の支援	100ページ	A	住民主体の通いの場等で活躍するボランティア・専門職向け研修の修了者数は目標を概ね達成しており、順調に進捗している。個別に市町村を支援する伴走支援事業（総合事業の体系的展開／保健と介護予防の一体的実施）では、引き続き市町村の抱える個別課題に応じた寄り添い型の支援を実施していく。		
(37)		<3>	地域包括ケアシステムの深化・推進に向けた取組支援	101ページ	C	地域包括支援センター職員養成研修の修了者数は、目標に届いておらず、市町村では、職員の入れ替わり・引継ぎや専門職不足が課題のため、県として引き続き、養成研修を実施するとともに、地域ケア会議等への専門職派遣や多職種連携に取り組む必要がある。		
(38)		2 介護保険給付適正化の取組への支援					-	
					–			